

平成28年度 第3回石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成29年2月23日（水曜日）午前10時00分～11時40分
会 場 石狩市公民館第一研修室
出席者 木村委員長、大橋副委員長、相馬委員、石井（量）委員、石井（滋）委員、
近藤委員、大黒委員、平委員、高橋委員
事務局 東次長、須藤主査、斉藤主査（社会教育主事）栗谷主査（社会教育主事）、谷川主任、
佐藤主任
傍 聴 なし

斉藤主査

皆さんおはようございます。本日はご多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。す。ただいまより平成28年度第3回石狩市社会教育委員の会議を始めたいと思います。はじめに木村委員長よりご挨拶をお願いいたします。

木村委員長

本年度最後の会議でもありますし、今年最初の会議でもありますので、今年もよろしくお願いいたします。去年はルーティーンの会議の他に北海道教育大学が主催する社会教育主事講習のお手伝いで、厚田でパネルディスカッションを行わせて頂きました。大黒委員が教え子と再会されたり色々とできごとがありました。それから、11月には、今日報告がありますけれども、フォーラム石狩を私も関わって開催したということがあります。多分主事講習については来年度は恵庭にお願いするという事になるんじゃないかなと思いますが、色々社会教育職員の養成にも、皆さんが積極的に関わっていただいて感謝しております。来年度は社会教育委員の全国大会もあります。色々新しい課題に挑戦したいと思っていますけれども、今日はよろしくお願いいたします。

斉藤主査

ありがとうございました。では、ここからの報告・議事につきましては木村委員長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

木村委員長

では、皆さんの所に配られていると思いますが、会議次第に従って進めたいと思いますが、最初に研修報告が2つあります。

まず、平成28年度北海道の社会教育研究大会が富良野市で開催されました。これについてご報告をお願いいたします。

高橋委員

なんとなく行ったんですけども、とても有意義でした。会場の富良野文化会館で流れていた音

樂が「北の国から」のテーマでした。「北の国から」をはじめ、さわやかな音楽が流れていて、石狩でも良い音楽があるんだけど、市民にはあんまり浸透していないから、北コミとか南コミとかで、ちょっとしたらいつでも市民が聞けるように、まず石狩市民が耳から聞いて「ああ、これ石狩の良い音楽だな」というような雰囲気づくりと、そして全国に発信をしていければ、良いのになと感じました。

それから、パネルディスカッションの中で「地方創生と地域の元気づくり」ところで占冠の教育長さんの話の中で、3つの「ション」が大事だと。大事って言うか3つの「ション」があったからできたそうです。カタカナの「ション」なんですけど。「ミッション」「パッション」「アクション」という事で、「パッション」は情熱。そして「ミッション」はセンス。「アクション」は行動で、この3つがあるとできる様な話を聞き、なるほどと思いました。それから、平田オリザさん「活力ある地域社会の実現に向けて」と言う劇作家・演出家の話で、文化の果たす役割ってすごく大きい。地域を変えていく力は文化の力だそうです。私はこの研修会に参加できて良かったなと思いました。

富良野でオムカレーというのを食べてきました。すごく美味しくてまた食べに行きたいな思います。最初、旗が付いていたのでお子様ランチ風だなと思ったんですけど、カレールーの中にこのオムライスが入っていて、かぼちゃのなんだろう、凄い食べたら美味しかった。かぼちゃとソーセージと何か付いていて、牛乳も美味しくいただきました。石狩では石狩鍋、石狩バーガーなのかなと思ったりしながら、しながら食べてました。行けて良かったです。ありがとうございました。なお、参加した人は450人。名簿を見ると447人と書いてあるので、450人集まってるんですね。あれだけ地域に行くと凄いその時だけでも凄い活気でした。

木村委員長

どうもありがとうございました。

木村委員長

一緒に参加された大橋委員長から補足説明はありますか

大橋副委員長

高橋委員から報告がありましたけども、大変良かったです。私は第4分科会の新篠津村が提言者だったものですから、それに参加してきました。

新篠津村では、石狩市もこれから参考になると思います。新篠津村は学校統合で1小1中になるとき、それぞれ地区ごとの活動を、衰退しない様にするために、地区の老人クラブが中心となって、自治会組織を立て直し、その老人クラブと学校との「ふれあい塾」が設けられ、その活動のようすが報告されました。高齢者の社会参画の機会をきちんと設けられていることは、大変良い報告だったなと思っております。以上です。

木村委員長

ありがとうございます。それではもう一つ。平成28年度フォーラム石狩についての説明をお願いします。

栗谷主査

おはようございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

私の方から平成28年度、石狩管内社会教育共同事業フォーラム石狩について、ご報告させていただきます。

(以降説明)

木村委員長

ありがとうございました。以上研修報告は2つですけれども、全体を通して何か質問などはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました、それでは次の報告ですけれども、平成28年度社会教育事業実施報告をお願いしたいと思います。

谷川主任

平成28年度社会教育事業実施報告をさせていただきます。

(以降説明)

木村委員長

どうもありがとうございました。今の報告、たくさんある事業の中から選んで頂いたんですけれども、いかがですか。補足説明・質問はございますか。

東次長

補足をさせていただきたいと思います。10ページですね。図書館の関係で上から2つ目をご紹介したんですが、友好図書館交流の説明で、これはご説明しますと、実際には友好図書館提携をしていますのは、輪島市・名取市と恩納村の図書館と友好図書館協定を結んでいます。そもそもの始まりは、名取市と石狩市で「ハマボウフウ」という縁で色々ご縁があって、協議会で一緒になったりだとかということがあって、東日本大震災があった時に図書館として何かサポートができないかという時にご縁がある名取市さんにサポートに行きましょうと言う話になって、図書館は当時地震で相当揺れて本がばらばらになってという非常に厳しい状況で、私も職員が程なくお邪魔をしてボランティアというかサポートをさせていただいたという事がありました。そんなご縁があって今後ともお互いに何かあったときには助け合いましょうということで25年の10月に提携をしたというところです。もともと輪島市とは、厚田村時代から北前船ということも含めて、つながりがあったんですが、そういったところから輪島市とそういう連携をさせていただきませんか、という話で25年の10月に名取市・輪島市と図書館として正式にお付き合いをさせていただくことになりました。恩納村については一昨年の4月に、恩納村の文化情報センターというのができて、1階が観光センター、2階が図書館という形で新たにできたものですから、恩納村はもともとスポーツや子どもの交流を通じてまちとして連携を計っていたものですから、改めて恩納村の図書館ができたという事で、交流をさせていただいたという事で、3つの館が私の図書館とそれぞれ連携をさせていただいているという事です。具体的にしていることは、人の行き

来を行う形でしています。今年もお話ボランティアの方に行って頂いて、向こうでお話会をしました。非常にたくさん子どもさんに来ていただいて、輪島市の子どもに石狩ならではの読み聞かせを味わってもらったりとか、向こうの館長さんがこちらにお越し頂いて、震災の時のお話をしてくださったりとかの交流をしています。人の交流とモノの交流ということで、お互いの地域の資料がありますので、お互いの町を知るという事で、私どもの資料をむこうにお渡ししたり、向こうの資料をお貸しいただくということで、交流をしています。今後ともこの分に付いては継続をする意向であります。

後は市制の 20 周年記念事業といたしまして、皆様方には色々お世話になりまして、俳句の NHK の公開録画、また、札幌交響楽団の演奏会ということで、おかげさまで非常に多く来ていただきましたし、特に札幌交響楽団については、相当な倍率になりまして抽選をせざるを得なかった。中々機会が無いという事で市民の皆様には楽しんで頂けたのかなと思っております。

補足に付いては以上でございます。

木村委員長

どうもありがとうございました。よろしいでしょうか。質問などございませんか。

大黒委員

北前船のことで、ここへ行ったんですけども、大変勉強になりましてね。こういう交流ができればすごく良いなあと思うんです。厚田もですね、北前船の資料ってあんまり無いんですよ。それをまとめなきゃならないなってことを感じました。今後ともよろしく願いいたします。

木村委員長

どうもありがとうございます。よろしいでしょうか。

相馬委員

もう一つお聞きしたんですけど、教育委員会で発表していないと思うんですけども、スポーツ健康課で「はりきりウォーキング」ありますよね。参加人数は 96 名参加しているんですけども。これは平成 26 年 5 月から始まって平成 29 年 3 月で終わりなんですけども、あの記録達成した人数は把握できないんでしょうね。恩納村まで 980 万歩というのは中々大変な数字だと思いますし、自分自身でも挑戦をと思ったものですから。

谷川主任

「はりきりウォーキング」の到達人数ですが、輪島市まで到達した方が今日現在で 27 名。恩納村まで到達した方は 14 名とのことです。

木村委員長

それでは、次に。第 59 回全国社会教育研究大会北海道大会について、わたしから説明いたします。皆さんの手元に、第 59 回全国社会教育研究大会北海道大会の開催要項、最終稿ではなく、原

原原案と言われましたけれども、今までこういう形で準備が進められておりまして、メモをお配りしております。「第59回全国社会教育研究大会北海道大会について」という別のメモを。両面です。今年9月11日～13日に札幌コンベンションセンターで開催されます。毎年全国大会があり、去年は千葉県で開かれて1300人位集まったんですけども。今、市町村合併で社会教育委員の数が減っておりますけども、最盛期には全国から3000人位が集まってやっていたものなんです。これは政令指定都市には別に組織がありますので、石狩・札幌会場でやるんですけども、中心は石狩管内の札幌市を除く市町村が中心になって成功させるという、そう言う風になっています。

そのことに関わってまず、2月13日に江別市で石狩管内の社会教育委員連絡協議会の打ち合わせが行われて、これには私と斉藤主査が参加しました。2月20日に第5回の実行委員会が行われました。石狩からは今、異動された西山さんが石狩管内の社会教育主事会を代表してずっと出ていただいていたという事もあるけど、私はきちんと全部5回でていなくて、久しぶりに全部出て大事なことはほとんど決まった後に参加するという事になったので、皆さんには申し訳ないんですけども。1つは後で話しますけども、実行委員会では道内の参加者も含めて全国から800人の方に参加してもらおうと目標を立てています。千葉で1300だったのを北海道で800というは少なすぎる目標じゃないかなと個人的には思いますけども、道内の社会教育委員は全部で2000人ほどいますので、道内の社会教育委員の4割の方たちが参加するという事を目安にしているようです。出来れば、実際には12日と13日となりまして、アトラクションは1日目は江差追分になっているわけですけども。2日目3日目、12日と13日の両日、あるいはいずれか、社会教育委員の方、ご都合が付けば出ていただきたいと思います。参加費は一人5000円と交通費も含めて負担。出ただけの社会教育委員には、市の教育委員会から参加費・交通費は出していただけるということです。

分科会については、よしあしだと思うんですけども6つ。9月13日には分科会をやるんですけども、今までと違うのは、テーマが一般的だったんですけども、全ての所に「社会教育委員の関わり」となって、それぞれの「子育て家庭教育支援」「地域づくり」だとか、社会教育の取り組みのなかで社会教育委員がどういう役割を果たすか、という事を中心に議論する。これはよしあしだと思います。社会教育委員がこういう議論するんだっていう事ですから、話しやすくなったという面と社会教育委員以外の方は参加しにくくなる、っていうよしあしがあると思うんですが、それが800人という考え方につながってるんでないかと思いますが、一応そういう形になっています。この中で関心のあるテーマで石狩市の社会教育委員の皆さんに出ていただきたいと思います。

それで実は開催に当たって委員の皆さんに参加していただくと共に、石狩管内の社会教育委員が全体会担当を分担して、石狩の7市町村で33名の係りを出してくださいと要請が来ております。主に12日に関わることでですけども、その中身どういう事をするのかというのは、私がメモしたものをお配りして、ちょっと汚いんですけども、「第59回全国社会教育研究大会北海道大会にかかる石狩管内社会教育委員連絡協議会打ち合わせ会議」という資料が配られていますが、全体会の係りって言うのを石狩管内の社会教育委員の方たちにやってもらいたいということです。どんな仕事があるのかは書いてございます。時間的には2日目の午前から全体会ですから、ほぼ1日何らかのお手伝いをするという事になります。

それから、もう一つは協賛金という事です。協賛金についての依頼の文章を皆さんの所に、大

島北海道社会教育委員連絡協議会実行委員長の名前で協賛金の募集への協力という事がきておりまして、これについても管内の皆さんと話し合いをしました。管内の話し合いでは、全体でどれくらいお金がかかって、協賛金はどれくらい集めなきゃならないという、もう少し議論をしてももらいたいという事で、一応ですね、社会教育委員が全体会担当を運営し、33名出すことと協賛金についても考え方について私なりに皆さんにお示しして、議論をしていただきたいと思います。私のメモの（４）ですが、この要請に加えて全体会のお手伝いをする33名のうち何名か、7つの市町村で33名ですから、平均5〜6人出すという事になりますが、それから、これにご都合の付く方はお手伝いをいただけないか。協賛金については実行委員会の説明では開催のためにかかる予算というのは、800人の参加で、1人5000円ですから、400万円。全国社会教育委員連合から70万円。これは全国の社会教育委員の自治体の教育委員会が拠出したお金で運営しているわけですから、もともと私たちのお金だと言っても良いんですけども、そこから70万円が出されて、北海道社会教育委員連絡協議会で150万。これもそれぞれの市町村が負担しているお金で運営しているものですから、そこから出されるんですけども。それから北海道からの補助金が100万円という事です。段々少なくなっておりまして、全国から1000人くる集会でも北海道は100万円しか出してくれないと、私個人的にはそう思いますけど。それで全体で720万円程度なんですけども、それに協賛金収入を100万円を見込んで、総額820万円で開催をするという事です。私は頑張って1200人集めたら、それで400人分の会費が増えるわけですから、それだけで200万集まるわけですので、もっとたくさんの参加者を集めて補う方法もあるんじゃないかと思いますが、委員長の説明では「お金の問題ではなく」てこれを機会にして、社会教育委員の果たしている役割について、色々説明をして社会教育委員の活動に対して理解を広げる機会にするんだという事が一番大事な事なんだと言いましたけども、特に直接意見は申し上げませんが、基本的にはお金です。

要するに社会教育委員連絡協議会としては、そういう風に各市町村の負担金を元にして運営しているけども、既に300万くらい準備のためのお金を使ってしまっているという事。それから、今でも全道研修の時に社会教育委員を1人出すのがやっとだということもいっぱいあって、今度も全国大会でもせいぜい1人派遣できるかどうかという自治体もたくさんあるので、将来的にはもう少しゆとりのある財政を実現して、そういう1人しか出せないところには2人来てもらう様に、例えば連絡協議会から補助するとか、少しは道の社会教育委員連絡協議会としては、財政のゆとりを持ちたいと思います。だから、黒字が集まって、会員がたくさんいて黒字が出たときには、その黒字分をどういうふうに使うのかって言うのを連絡協議会の中で民主的に議論するってことが課題になると思いますけども。特にどこの市とか町にいくらお金を出すとかか割り当てをしたり、目標を立てると言うようなことはしないけど、全体で100万集めるという事だと思います。ですから、うちは大変だから集められないっていうふうに結論を出しても良いんですけど、一応こういう当日のプログラムができますので、後に協賛金を出していただいた方は広告を出すことができるので、1ページを出すために3万円。半ページだと1万円。半ページの方が安いんですけど、半ページ2つ分で2万円ですからね。それで、4分の1だと5000円としているようです。道内では189自治体があるので1つ町で5000円平均で広告を出していただいても、目標を達成できるんですけども。市も町も村もありますから、目安とすると、石狩市だと広告を出すという事であれば、2〜3万円で集めるという事が、100万円の目標を達成するという事

で、求められるかなと思いますが、でも絶対やらなきゃいけないという事では無いという事です。私としては、方式を色々考えて1つは、市とか教育委員会が協力していただいて、全道・全国から1000人位来ていただいて、それでお土産を買っていく人もいらっしゃるの、例えば石狩市内の企業に広告を出してもらえないでしょうかという形で、佐藤水産のようなところで広告をできないかなって。それから私が理事長をしている財団がありますので、そこからは私の個人になるか、財団全体になるか分かりませんが、一人親家庭の子どもたちに全道からお金を寄付していただいて、給付型の奨学金を出していたり、あと市民活動に助成金をだしている団体なんですけども。そこ、私は1万円の責任を持ちますが、全体として2万から3万円くらいあつめたら良いのではと思っていて、その点について事務局にも協力していただく。もし、社会教育委員の皆様方であつたらだしてくれるとかね、私のサークルとか研究会でぜひ広告を出したとか、そう言うふうのがあつたら、積極的に提案していただければと思いますが。これはあんまり無理をせずに、せいぜい2万円から3万円くらい出せばいいのではないかなというふうに思います。

実は前に、全国の社会教育員連合から寄付金を募るってのがありまして、皆さんの所に一度配っていますが、そう言うのはあんまり、社会教育委員の制度って言うのは、公民館だとか博物館・図書館には公民館運営審議会だとか博物館協議会だとか図書館協議会っていう組織の規定はあるんですけど、社会教育法には社会教育委員会だとか社会教育委員会っていう規定は無く、それぞれ個人の立場で役割を果たすっていう事になっていますので、会議として全体でいくらか集めるかとか、特には私としては決めない形でやりたいと思いますので、協賛金についてはできればこういう風にしたいと。積極的にご意見があれば出していただいて。全道的には目標との関わりで、黒字が出た時どうするんだという。目標人数を減らせば良いじゃないか、という議論もありましたが、けれども、そう言うことだという事です。

それで1つは協賛金のことなんですけども、これは多分、次の会議は5月ですね。5月の会議でも間に合うんですけども、今日参加されていない委員の方も結構いらっしゃいますので、個別にご協力をお願いをしていただいて、もちろんご馳走が付くっていう事で全く構わないんですけども。あと社会教育委員だけで、はたして機器の管理だとか操作だとか色んな事があるので、社会教育委員だけでは不十分なので教育委員会の職員の方にもお手伝いをお願いするっていう様なこともあるんですが。例えば9月12日には手伝えるのでっていう。あと、テープおこしだとか事前の準備もあるので、会場に行かなくても、例えば看板のようなものをつくるとかありますので、それなら手伝えるとか、そういうことも含めてお手伝いしていただける方は積極的に、お手伝いをしていただければと思います。お手伝いができるかどうかという、今の段階でお手伝いできますよって方はいかがですか。

7人もいらっしゃいますか。ありがとうございます。

あと分科会の参加だとか、そう言うのは改めて皆さんに諮って。出来れば、今まで私たちが取り組んだこと、それなりに全国的にも知っていただいて良いことを色々やっていますので、誰が参加しても石狩の社会教育委員の取り組みは話ができるっていう資料は全国大会までに作らせて頂きたいと思っていますので、ぜひそれを持って、もちろん自分のご意思を持って参加していただければというふうに思います。実は今日これから網走に行くんですが。明日は石狩市の社会教育委員の話もしてこうようかなと思っています。

全国大会について何か質問ありますか。基調講演は植松さんといって赤平でロケット打ち上げの会社の方、それから、パネルディスカッションの鈴木眞理さんっていう青山学院の先生は私も良く知っているんですけど。何か質問あるでしょうか。

木村委員長

ありがとうございます。それで、社会教育委員研究大会について質問は。

相馬委員

会費のことなんですけども、確か全国社会教育委員連合の予算が厳しいっていう事で、社会教育委員も減っているということもあると思うんですが、「社教情報」という本がありまして定期購読もできるようなんですが、定価が360円なんですけど、たいせつな情報も載っているし、これを買って社会教育委員に配布することで、全国社教連の収入にもつながるんじゃないかと思うんです。ですから、社会教育委員の勉強にもなるものですから、できたら配布してもらいたいと思っているんです。

木村委員長

これは今、配布していないんですか。

東次長

配布していないですね。

木村委員長

それ、何部かおりてきてますか。

東次長

確認してみます。

木村委員長

札幌市の場合は、一人一人に配られてたんですけども、多分その分は分担金みたいな形で払っていて、その見返りとして。札幌のような政令指定都市の社会教育委員連絡協議会では、そういうやり方をしていたんですね。確かに、社会教育委員全員の分を配布するとなれば膨大な費用になりますから、財政が厳しいなかで協力の仕方としてはそういう協力の仕方もあるのかなとね。私は社会教育法の中で社会教育委員っていうのはきちんとした制度になっているのだから、その社会教育委員の研修にももう少し国がお金出しても良いはずなんだけど、文科省はあんまり、文科省自身がやる気を失っていて、お金をどんどん減らしていくって。そういうことがあって。だから両方言わなきゃいけない。「お金ちゃんと出さない」というのと「それでも足りない分は、少し出すのはやぶさかではないけれど」という形では対応しなきゃいけない。

あと全国大会に関してよろしいでしょうか。まだ5月の時にもう一度話し合って、直前まで準備の状況も含めてご報告しながら対応したいと思います。

それでは、報告事項はここで終わりました。議事に入りたいと思います。
最初に平成 29 年度社会教育関係予算案、平成 29 年度主要な施策の概要について。これは事務局から報告いただいて、進めていきます。

須藤主査

社会教育課の須藤です。よろしくお願いします。それでは平成 29 年度の社会教育関係予算について、資料の平成 29 年度社会教育関係予算案に基づいて説明いたします。
(以降説明)

木村委員長

ありがとうございます。これも短い時間で質疑をするのは難しいし大変だとは思いますが、皆さんからご意見・質問はございますか。
この厚田学・浜益学講座っていう新規の事業で、どういう事が考えられているのですか。

東次長

新規事業という事で 29 年度から取り組んでいくんですが、具体的には厚田の道の駅オープンに向けて、地元の方を中心に厚田をしっかり、浜益もですが、ガイドができるような形が必要だということのなかで、今目指しているのは、この講座を打つことで関心を持ってもらうことが一つと、成果品としてガイドブックができないかと、2 ヶ年で計画をしているものです。柱が 2 つあって、地元の方で売り子さんも含めて「ちょっとこういうところに行きたいんだ」という声にすぐに答えられるような地元の方が必要だっていうことが 1 つと。もう一つはそれぞれの区で、なってもらっても難しいという事があって、例えば花川だとか人数が多いところから来てもらってサポートしてもう、そう言うことを 2 つ大きな柱として考えております。いま、案の段階ですがそんな形で考えていて、最終的にはガイドブックができるような形で厚田の道の駅で、しっかりそれが来て下さった方に PR できる、っていう事をめざしています。

木村委員長

具体的には、人材養成みたいな取り組みですか。

東次長

そうですね。人材養成とまでは中々いけないのかもしれないという事も無いわけではなくて、まずは関心を持ってもらう。地元の方の見た目と外からの見た目っていうこともあって、それぞれをミックスした形で、資源・提供できるものをしっかり記録をして形にしていくっていう事かなと考えています。

木村委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

東次長

若干の補足をさせていただきます。まず、1枚ものの方でご説明いたしますが、社会教育総務費の中で23,000,000円、大きく動いています。この分については、学び交流センターの屋上防水の関係で被害が一昨年の9月にあって、雹被害ですね、防水シートが破れたものですから去年直した形です。コの字型の半分を直したんですけども、残りの半分学校として使っているところも相当年数が経っていて、防水加工そのものが耐えられない形の部分で、新たに23,000,000円かけて屋上防水を回復しようとするものであります。それから、文化財保護費の関係、7番にまいります。史跡看板等整備事業費として新たに、こちらの2枚ものにも載せてはあるんですけども、3〜4ページですね。浜益区の史跡ハマシケ陣屋の分について、昨年ですね。地元の有志ボランティアの方々が、笹がひどいということもあって、みんなで総出で草刈をしたという形で、そうとうきれいになってきたこともあって、そして見ていただけるって言う部分について、解説看板という形で入口の大手門の所に立てる計画をしています。鮭の博物誌刊行事業という事で新たに出てきますけども、29年度に、石狩と鮭については非常に関係性が深いという事もありまして、それを1冊の本にまとめる刊行事業をしようとするものです。後は文化財活用という事で、厚田区・浜益区の分ですけども、ドローンで上から撮影をしてですね、撮影をしたものを観光資源として使っていこうとして予算をつけております。あと大きな動きの部分としては、図書館の関係になるんですが、こちらの2枚目ものの1枚目を見ていただいて、柱のⅡの(2)。学校図書館等充実事業という事で、24,486,000円。プラスマイナス150万ぐらいですが、この分については240万くらいの増額になっております。具体的には、小中学校で文科省が定める学校図書基準に達していない状況がございまして、特別加算を予定しております。図書館についても、1枚ものの9番の改修等事業費で4,000万のマイナスです。これも屋上防水で、16年経ちまして、図書館の屋上って棚田みたいな状況で、1つ1つ区切られておりまして、非常に手間がかかる作業だということで、面積的には学び交流センターとそれほど変わらないんですが、非常に手間がかかって大変だという事で、4,000万くらいとって。万が一もれてしまうと本が台無しになってしまうものですから、そういった意味で今年度予算が付けられております。社会教育の関係で2枚ものの1番下。放課後すこやかスポーツ教室って言うことで、協働事業45万つけてます。この分については、総合型地域スポーツクラブのアクトさんとの協働事業という事で、マックス5校を対象に、放課後の時間帯を活用して、体育館をベースとなると思うんですが、ボール遊びとか、様々な運動プログラムを指導者に指導していただいて、子どもたちの運動能力の向上を図ろうという形の事業を新規で取り組むことにしています。あわせて保険福祉部と連携して、食育面からも、詳細をつめなくてはいけない部分はあるんですが、子どもたちに1週間なり2週間なり、食事の様子を記載してもらって、提出してもらって、保健師なりがチェックして、食事指導をしていくという形を考えております。どんな形になるか、学校側の希望もありますので、新に課題となっている能力の向上に向けて社会教育として学校支援という枠の中で新規で事業を実施しようとするものです。以上が補足説明になります。

木村委員長

ありがとうございました。意見・ご質問はありますか。

相馬委員

浜益のハマシケ陣屋は私もちょっと関わっているものですから。庄内藩研究会を作りましてやっているんですが、毎月 1 回定例会あって 3 年くらい経つんですけども。私が見てる限りでは、道内、道外からの庄内藩を見学に来る人が多くなっています。そして、案内板がないという事で、来る人から色々な意見がありまして、とりあえず案内板を作らなきゃいけないと、2 年前くらいから取りかかって。予算が無いわけですから、手製で、会員が 10 名位いるんですけども、いろんな工夫をして、材料なんかも仕入れてきて、文章を提供してもらって、案内板を作るって一生懸命やってるんですけども、その効果も現れてきているようなんですけども、やっぱり向こうから来る人は、浜益は田舎ですから、地域の人に確認してもなかなかわからんっていうこともあります。特に、案内板の設置には教育委員会さんにも大変お世話になってるんですけども、その分と、もっと私たち浜益区の住人が、これだけの関心を持たれているものがありますので、もっともっと新しいことを勉強して、少しでも PR 出来ればなという形にしていかなければなという事で、がんばっているんですがなかなか思うようにはいきませんが、浜益の庄内藩を知ってもらうためには、もっと詰めていかなければならないなと考えているところです。

木村委員長

ありがとうございます。社会主事講習のときにもお話をその熱意をお話くださいました。他にいかがですか、よろしいでしょうか。

それでは平成 29 年度の社会教育関係予算案と事業の概要についての議題は終わります。

次に平成 29 年度石狩市社会教育関係事業の取り組みについてになりますが、私のメモも一緒に配布いただいていると思います。

栗谷主査

では、私から説明させていただきます。A3 の大きな資料になります。

(以降説明)

木村委員長

ありがとうございます。私も後で関わって皆さんにお諮りすることになりますが、今の報告について、なにかありますか。

高橋委員

私の所属している第六町内会では、町内会カレッジとしてマイナンバーについて去年の 1 月にやりました。「地域の高齢化と高齢者の孤立を防ぐ活動」っていうところでは、町内会、高齢者クラブ、市民サークルでそれぞれ取り組んでるんですよ。まだ発展させていく余地はたくさんあるんですけど、何もやってないではなくて、動いている。その他に社会福祉協議会では「お元氣塾」で言うのが町内会に関係なく、3 つくらいの町内会が関わる地域単位でやってますね。そう言うのを参加している人達だけがわかるんじゃなくて、一般の人みんなが見えればもっと良いだろうし。それに出てこない高齢者にどう関わるか、って言うのが課題なんですけど。その課題あたりもはっきりさせればいいかなと。実態をつかんで、どうするか、ということですね。

木村委員長

他にはございますか。

私も札幌市の西町というところで、まちづくりセンターって札幌は 87 ヶ所あるんですけども、そこを地域の居場所にしようという取り組みで、社会福祉協議会と町内会と民生委員協議会の人達と一緒に昨年度はセミナーを 3 回やって、この 2 週間前に私も話をしてワークショップをやった。町内会ごとにいろいろ、いわゆるふれあいサロンみたいなものをどうするのかって。札幌市の場合、ふれあいサロンが上手くいってない。上手くいってないのは、相談にのってもらいたいとか話を聞いてもらいたいって人が決意をしていくんだけど、その時に開いていないと。開いてないとふれあいサロン、居場所ってのは意味がない。けど町内会はみんな忙しいから、1 週間に 1 回しか、しかも時間も 10 から 13 時までくらいしか開いてないから、相談しようといっても開いてない。それが居場所が上手くいかない理由で。毎日開ければ良いでしょうって言ったら、忙しくてとてもできない。じゃ皆さん以外にも関わってもらう人を増やすって、そこから出発して、居酒屋にしようとか、大焼肉パーティをやろうとかアイデアが出たんですが、最初に始まったのは 100 円コーヒーをやろうっていうことになって。今はコーヒー目当てに来る人が増えて、少しずつ居場所が機能し始めた、そういう取り組みもあります。

他にいかがでしょうか。

そうしたら、私の方から、先ほどの全国大会のメモの裏を見ていただきたいのですが。社会教育委員っていうのは、社会教育について意見を言うだけじゃなくて、実際に動かしていくっていう役割を、石狩市の社会教育委員はしていたわけですね。前任の徳田先生が委員長をされてた時には、社会教育委員の話し合いの中から「いしかり市民カレッジ」が生まれたとなっていて、今まで色んな事をやってきました。来年度の社会教育委員の会議の取り組みについて、今までの取り組みについて一つは、2013 年には①「社会教育委員と共に学ぶ講座」っていうのを全 5 回やりました。それから 2014 年 11 月には②「石狩市のコミュニティについて学ぶー浜益区の取り組みから」という事で、浜益でワークショップをやったんですね。③が「教育プランへの提言と教育委員会との懇談」というのをやりました。これは教育プランに社会教育委員として意見を言うためにも、①や②で学んだことが活かされたと思います。④に社会教育主事項講習の一貫として、2015 年にパネルディスカッションを厚田区でやりました。それから 11 月 20 日には「厚田を石狩市の宝に一石狩市民が知っておきたい〇〇のこと」っていう、これもワークショップをやり、去年は社会教育主事項講習の一貫としてパネルディスカッション「石狩市厚田区と浜益区の地域づくりと社会教育の課題」というのをやったんですね。

取り組んできたってこと、結局は社会教育委員の会議って年に 2 回とか 3 回なんですけども、社会教育委員の会議をやるとなると報酬を出さなきゃいけないので、それだったら社会教育委員の会議を増やすよりは、市民と一緒に学ぶような場所にした方が良く、そうしたら報酬も生じないし、社会教育委員の実質的な研修になるんで、という事でこういう取り組みをしてきました。

つまり、社会教育委員の役割を発揮するためには、とても 2 回とか 3 回の会議では足りないので、社会教育委員自身が地域のことを良く知って、社会教育の課題を考えることが求められるので、そのために学びその成果を教育プランに反映することができたんですね。そのことを委員みんなで分担しながら、その講座を立ち上げるのに取り組んだっていう事、また、学んで知ることの楽しさを共有することもできたと思います。また、厚田区や浜益区の地域の現状や課題の一端

を知ることができたと。これは今後の取り組みの手がかりとなって、今、厚田学・浜益学って新しく提起されている、そう言うことにも私たちが何らかの形でお手伝いができるのであればと思います。

次年度以降の取り組みなんですけども、一応厚田と浜益でそれぞれ出かけていって、やったりしてきたわけなんですけども、浜益に出かけていって、浜益の課題を浜益の方を話し合うってのは、まだきちっとできていないですね。それを出来れば来年度やれたらなと一つあります。それはですから、予算もついて厚田学・浜益学に何らかの形、それがどのように進むかっていうのを考えながら、それをもっと応援できるような取り組みとして、どういう風のができるのか、っていうのを考えたり。それと、厚田と浜益が一巡りしたので、今度は石狩に来てもらって、厚田と浜益の課題を考えるって言うワークショップを1回やったほうが良いんじゃないかなっていうことですね。

それは、これまで続いた一つの継続のことなんですけども、もう一つは、栗谷さんが報告なさった、要するに実施状況の中で今後考えられることがいくつか出ていますけども、これも例えばふれあいサロンっていうか、コミュニティーのまとまりをどうするかとか、地域の中に孤立しているお年寄りだとか、子育て中のおかあさんだとか、若者だとか、そう言う人達の居場所をどう作るかっていうこともあるかもしれないし、もっと別の大事な課題があるかもしれない。学校統廃合が進んで、学校が無くなった所のコミュニティーをどうするのか、っていう問題もあるかもしれないので、これについては、次回以降をどういうテーマで、来年度取り組むかっていう事について、先ほどの事務局からの報告も含めて、次回以降に議論したいなと思っています。具体的に浜益でいつやるかとか、石狩でいつやるかとか、石狩市の地域課題について、どういう事を社会教育委員で取り組むかってことについて、来年度の社会教育委員の会議で話し合っていきたいと考えております。それについて何か、次の会議で、ですから皆さん考えてきて頂いて、今年はこの事をやりたいとか仰っていただけたら。もう既にこういう事やりたいとか、やったらどうでしょうか、と考えている方はぜひ、ご意見いただきたいと思います。

高橋委員

私がやってるのは、「いしかり歌う会」というサークルで、1ヶ月に1回なんですけども、誰でも1回100円で会館で、100円は会場費なんです。それで、歌集を貸し出して、歌を歌って、休憩時間はみんなで交流しておしゃべりしたりして。1回に1時間半でやってます。結構メンバーは入れ替わっています。

木村委員長

それも広い意味で居場所作りみたいなものですよ。

高橋委員

1ヶ月に1回だけなんですけど、家にいたら声が出なくなるとか。お話したい人、歌に自信ないけど、みんなと一緒に大丈夫だという人が来たり、いろいろです。男の人も女の人も、お年寄りが多いです。

木村委員長

ありがとうございます。そう言うことを含めて次回議論したいと思います。多分、石狩市の中でそう言う取り組みがどれくらいあるのか、ってことを知ること自体がすごく大事だろうと思います。

高橋委員

それと、町内会の中で福祉部というのがあって、1回100円で、町内会員でないとだめなんですけど、憩い喫茶というのをやってるんです。町内会の補助金を出してというか、福祉部の予算があって町内会で補助して、コーヒーとかお茶とか飲み物はいくらお代わりしても良くて、お菓子もあります。音楽を演奏してくれる人を呼んだり、包括支援センターから来てもらって体操したり。歌もやったり、お話してお茶も飲む、っていうのを年7回やってます。後は高齢者クラブに所属している人が毎月1回例会で、年3000円会費として出して、お酒も出して、カラオケが多いですね。イキイキ体操という体操をして、声出しの歌をやって、みんなで歌ってからカラオケです。誕生会もやります。形だけの誕生会ですけども。

木村委員長

そういう地域ごとの取り組みが、どういう風に知恵を絞りながらやられているのか、ってことをいろんな人が交流しあって、自分のところでもやってみようとか、そういう場所を作ろうっていうのが社会教育の大事な役割な部分ですよ。例えばそう言うことを次回考えてみたいなと思っています。

他によろしいですか。それでは次回はそう言うことで話を進めていくっていうことにしたいと思います。

最後にその他で何かありませんか。

では、以上で本日の会議を終わりたいと思います。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成29年3月22日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純